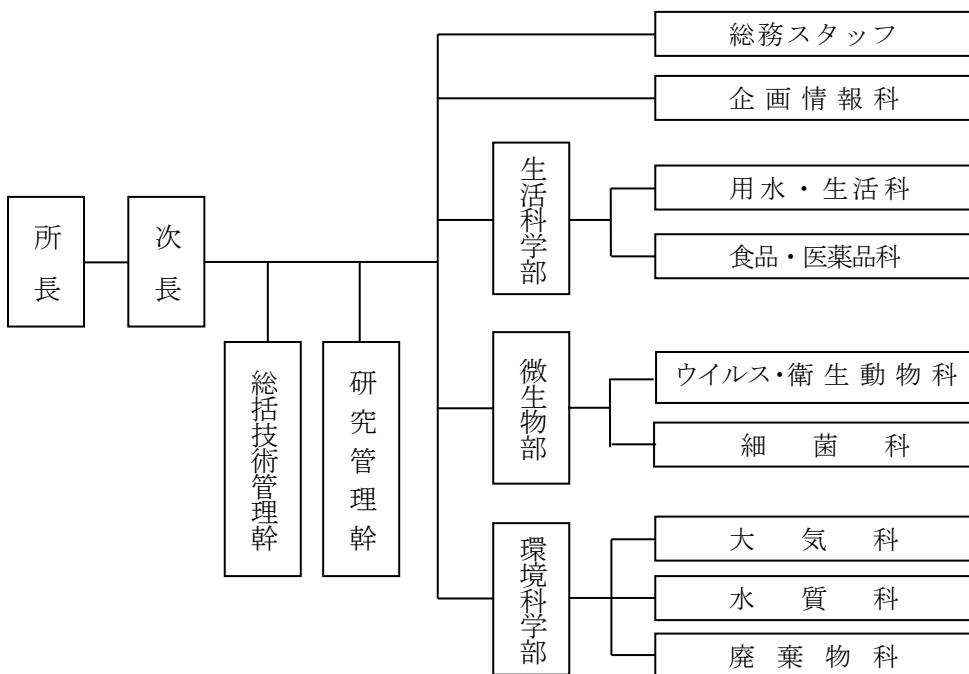


I 組織と沿革



組織



沿革

- 昭和24年 県立医学研究所として、甲府市中央に創設。
- 昭和35年 県立衛生研究所に改称。
- 昭和46年 甲府市富士見に新築移転。
- 昭和48年 衛生検査センターを甲府市中央に創設し、行政検査の一部を分掌。
- 昭和50年 県立衛生研究所を県立衛生公害研究所に改称。
- 昭和59年 衛生検査センターを甲府市太田町に新築移転し検査機能を強化。
- 昭和60年 県立衛生公害研究所を衛生公害研究所に改称。
- 平成 9年 衛生検査センターを衛生監視指導センターに改称。
- 平成22年 衛生公害研究所と衛生監視指導センターを組織統合し、衛生環境研究所に改称。
旧衛生公害研究所を本所、旧衛生監視指導センターを分所として業務開始。
- 平成24年 分所から機器等を本所に移転し、業務を統合。
- 令和6年 現庁舎敷地内に検査棟を増設。

II 業務報告

企画情報科・総務スタッフ

1 講師派遣及び研修の実施状況

月 日	主催者(研修会名)	講師名	内 容
4月15日	衛生薬務課 (第1回監視指導技術研修会)	山上 隆也	食中毒検体材料の採取について

2 委員会、協議会並びに業務関連学会の委員など

委嘱団体等の名称	役員等の名称	職員氏名	任期その他
地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部	公衆衛生情報部会監事	山上 隆也	令和6年度
地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部	ウイルス研究部会委員	大沼 正行	令和6~7年度
(一社)山梨県浄化槽協会	精度管理委員	小鳥居 哲	令和6~7年度
(公財)日本水環境学会関東支部	幹事	長谷川 裕弥	令和6年度
(公財)日本水環境学会地域水環境行政研究委員会	幹事	長谷川 裕弥	令和6年度

3 来所者

月 日	目的	来 所 者
8月9日	検査棟完成 内覧会	報道機関 (5社)
8月21日	インターンシップ	薬剤師職希望大学生 (3名)
8月23日	インターンシップ	獣医師職希望大学生 (1名)
8月29日~30日	インターンシップ	化学職希望大学生 (2名)
9月18日	医師研修	山梨大学附属病院研修医 (2名)
11月 6日	県議会教育厚生委員会視察	委員 (8名) 地元議員 (2名)
12月26日	しごと紹介セミナー	化学職希望大学生 (1名) 薬剤師職希望大学生 (1名)

4 刊行物

年 月	名 称	概 要
6年12月	山梨県衛生環境研究所年報 第67号	研究報告、業務報告、資料、学会発表等

当所ホームページ (<https://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>) に掲載

5 所内の研修

月 日	発 表 者	内 容
4月24日	志村 ひとみ	服務規律の確保等について
5月29日	志村 ひとみ	ハラスメントのない職場づくり
6月26日	堀内 雅人	火災発生時の対応について
7月31日	山本 敬男	化学物質の取扱、管理について
8月28日	土屋 邦男	毒物・劇物の取扱いについて
9月25日	高橋 史恵 望月 映希 志村 ひとみ	調査研究紹介：ブタクサ花粉飛散調査 情報セキュリティについて 事務処理ミス防止対策について
10月30日	望月 映希	He以外のキャリアを用いたGC-MSによる分析方法の検討の紹介
11月27日	小鳥居 哲	R7年度の第Ⅱ型共同研究の紹介
12月25日	柳本 恵太	下水を対象とした新型コロナウィルス等の感染症流行予測調査（下水サーベイランス）
1月29日	土屋 邦男	山梨県衛生環境研究所健康危機対処計画（感染症）の策定について
2月26日	堀内 雅人 山本 敬男	所内防災マニュアルについて 化学物質の安全管理について

6 研究倫理に関する研修

受講者	実施機関	研修コース
所員全員	日本学術振興会	研究倫理 e-ラーニング

7 成果発表会

開催日 方 法	令和7年3月11日 Zoomによるオンライン開催	
内容	発表者	発表題名
口頭発表	大沼 正行	下水中の新型コロナウイルス遺伝子の検索
	北爪 美帆	当所で確認された新型コロナウイルス感染症患者の疫学解析
	長谷川 裕弥	河口湖、精進湖、本栖湖のCODに関する研究

8 調査研究課題評価及び倫理審査

調査研究課題に関する評価の客観性、公正さ、信頼性を確保するため、外部専門家を評価者とする外部評価委員会を開催した。

(1) 外部評価委員会の開催

【研究課題評価（事前・事後評価）及び倫理審査】

開催日	令和6年9月13日
開催方法	対面（委員1名のみ書面参加）
評価者	外部評価委員 7名
評価内容	調査研究開始前及び終了した調査研究課題についての適切性・妥当性と新規調査研究の倫理審査について
令和7年度開始の研究課題	1題
令和5年度終了の研究課題	3題
令和6年度共同研究の倫理審査	1題

(2) 評価委員

会長	風間 ふたば	山梨大学 名誉教授
副会長	高山 一郎	山梨大学医学部 保健管理センター 教授
委員	大西 一成	聖路加国際大学公衆衛生大学院 准教授
委員	小島 夏子	（公財）やまなし産業支援機構 山梨県知財総合支援窓口
委員	中川 裕子	山梨学院短期大学 食物栄養科 教授
委員	藤原 真史	山梨大学大学院総合研究部 生命環境学域 准教授
委員	箕浦 一哉	山梨県立大学 国際政策学部 総合政策学科 教授

(3) 評価方法

各評価項目の評価に基づき、5段階（5：優れている、4：良好、3：概ね良好、2：部分的見直しを要す、1：全面的見直しを要す）の総合評価を行い、コメントを付す。

- | | |
|--------|---|
| 事前評価項目 | 1 研究の必要性
2 研究内容の妥当性
3 研究内容の新規性・独創性
4 研究資源の妥当性
5 目的達成の可能性
6 期待される研究成果 |
| 事後評価項目 | 1 目的の達成度
2 研究成果の活用
3 今後の発展性 |
| 倫理審査 | 1 承認
2 条件付承認
3 変更の勧告
4 不承認
5 非該当 |

(4) 評価結果

【研究課題評価（事前評価）】

総合評価点 1題 「4：良好」であった。（表1）

【研究課題評価（事後評価）】

総合評価点 3題 「4：良好」であった。（表2）

【倫理審査】 1題 「1：承認」であった。（表3）

表1 研究課題評価（事前評価）

研究課題名	ヘリウム以外のキャリアガスを用いたGC-MSによる分析法の検討
総合評価点	4
総合コメント	全国的なヘリウム不足を受けて必要な研究であることは理解できる。本研究の実施にあたっては、他の研究機関やメーカーの情報も収集して効率的に行い、所として使用しやすいマニュアルを作成してほしい。

表2 研究課題評価（事後評価）

研究課題名	下水中の新型コロナウイルス遺伝子の検索
総合評価点	4
総合コメント	膨大な量の試料を処理したことを評価する。今後衛生環境研究所が下水中の新型コロナウイルスのデータを集め、県のホームページで公開することなので、本研究をしっかりと継続してほしい。
研究課題名	当所で確認された新型コロナウイルス感染症患者の疫学解析
総合評価点	4
総合コメント	新型コロナウイルス蔓延時の膨大なデータを収集し、統計解析を行いましたことは評価できる。今後、このデータを統計の専門家と協力することによりさらに活用してほしい。また、本研究で得られた多くの貴重なデータを、県内の関係機関と共有することにより、新たな感染症への対策に寄与することを期待する。
研究課題名	河口湖、精進湖、本栖湖のCODに関する研究
総合評価点	4
総合コメント	富士五湖の水質について貴重なデータが得られた研究であり、国の示す水質環境基準のあり方に一石を投じる内容である。今後も継続して実施されることを期待する。 なお、本研究で得られた成果について、「湖の健康診断」といった表現を用いることで、富士五湖の水質保全に役立っていることを、より広くアピールできるものになると思われる。

表3 倫理審査

研究課題名	塩素消毒が困難な泉質におけるモノクロラミン消毒の有効性に関する検討
倫理審査結果	1

生活科学部

試験検査 実績

試験検査実績（令和6年度）

部名	科名	区分	小区分	行政試験		依頼試験		合計		備考
				検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	
生活科学部	用水・生活科	飲用水・用水等の試験	水道水試験	0	0	0	0	0	0	
			水道原水試験(項目:農薬)	50	1,246	0	0	50	1,246	
			一般飲料水試験	0	0	0	0	0	0	
			用水試験	0	0	0	0	0	0	
			放射性物質	0	0	0	0	0	0	
			その他	0	0	0	0	0	0	
	家庭用品試験	家庭用品試験		0	0	0	0	0	0	
		温泉分析	温泉分析	19	322	0	0	19	322	
	科 計			69	1,568	0	0	69	1,568	
	食品・医薬品科	食品等試験	残留農薬試験	96	19,363	0	0	96	19,363	
			食品等の理化学試験	224	2,010	0	0	224	2,010	
			放射性物質	64	128	0	0	64	128	
			残留動物用医薬品	110	4,456	0	0	110	4,456	
			その他	0	0	0	0	0	0	
		医薬品試験	医薬品等の試験	3	13	0	0	3	13	
		科 計		497	25,970	0	0	497	25,970	
	部 計			566	27,538	0	0	566	27,538	

1 用水・生活科

山梨県水道水質管理計画に基づく水質監視

「令和6年度水質監視実施計画」に基づき、県内の水道原水を6月(24定点)と9月(26定点)に採水し、水質管理目標設定項目の農薬類について調査した。水質管理目標設定項目の農薬類は全ての定点で不検出だった。

水道水中の放射性物質検査

水道水中の放射性物質検査については、令和5年度をもって終了したため、令和6年度の検査実績は無い。

温泉の定時・定点調査

温泉資源の保護および有効利用のための基礎資料を蓄積するために、既存温泉の定時・定点調査を昭和60年度から行っている。令和6年度も環境・エネルギー部大気水質保全課と共同で、中北および峡東林務環境事務所管内の19定点について、温泉水を採取して主要成分を分析した。

家庭用品

家庭用品の試買検査については、令和6年度より外部委託による検査となったため、令和6年度の検査実績は無い。

室内空気中の揮発性有機化合物濃度調査

県内3か所の家屋の室内空気中の揮発性有機化合物の採取を年1回(8月)実施した。検体は国立医薬品食品衛生研究所に送り分析された。

2 食品・医薬品科

残留農薬試験

「令和6年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された国産の農産物(果実・野菜等)54件(県内産43件、県外産11件)と輸入食品12件(農産物8件、冷凍食品4件)について、概ね240項目の農薬を検査したが、全ての検体が残留基準以下であった。(資料 表1-1、1-2)

また、「畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査実施要領」に基づき、県内産の牛・豚・鶏30件(牛14件、豚8件、鶏8件)の筋肉について、概ね110項目の残留農薬試験を実施したが、いずれも不検出だった。

理化学試験

「令和6年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された、果実酒、ミネラルウォーター、清涼飲料水、漬物等の食品217検体について、1995項目の食品添加物等の検査を実施した。また、折り紙とミニカーのおもちゃ3検体と、皿、茶碗等の食器類4検体について、15項目の溶出物等の検査を実施した。いずれの検査も、すべて基準に適合していた。(資料 表1-3)

残留動物用医薬品試験

「畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査実施要領」に基づき、県内産の淡水魚(10件)、鶏卵(13件)について、約40項目の抗生物質および合成抗菌剤等について検査を実施したが、全て不検出だった。

また、県内産の牛14個体、豚8個体、鶏8個体の筋肉、腎臓、肝臓の3部位について、妥当性評価試験が終了した約46項目の動物用医薬品試験をしたところ、いずれも不検出だった。

農産物等の放射性物質試験

原子力発電所放射能漏れ事故に関連し、県内で生産もしくは採取された農産物や野生のこ等、64検体の放射性物質試験(対象放射性核種は、Cs-134、Cs-137の2核種)を実施した。なお、収去品の放射能検査は令和5年度をもって終了した。

医薬品等の試験

「令和6年度医薬品・医療機器等一斉監視指導実施要領」に基づき収去された、医薬品2件の規格等の試験検査と、真空採血管1件の日本工業規格試験(一部)を実施した。医薬品1件で、1項目の規格不適合が確認されたが、他はすべて適合していた。

食品衛生外部精度管理調査

「試験検査等業務管理要領」に基づき、(財)食品薬品安全センター秦野研究所が実施した外部精度管理調査に参加した。対象物質は残留農薬のアトラジン、クロルピリホス、フルトラニル、食品添加物の着色料、ソルビン酸、残留動物用医薬品のスルファジミジン、米のカドミウムを試験した。

残留農薬のクロルピリホスとフルトラニルについて、やや低めの結果との指摘を受けたため、試験法等の改善を行った。他の項目についてはすべて良好な結果であった。

地方衛生研究所地域保健総合推進事業に係る模擬試料による訓練への参加

農薬が混入した麦茶の誤飲による健康被害が発生したと想定して、訓練が行われた。提供された情報を基にして、配付された試料中の原因物質を推定し、定性および定量試験を行った。試料に含まれる原因物質についてGC/MSで定性試験を行った結果、アセフェートと推定された。アセフェート標準品を用いてLC/MS/MSで定性および定量試験を行った結果、原因物質をアセフェートと確定した。

試験結果を報告するとともに、各地衛研の結果について、オンラインによる意見交換を行い関連事故への対応を協議した。

微生物部

試験検査 実績

科名	区分	小区分	行政試験		
			検体数	項目数	
ウイルス・衛生動物科	流行予測調査	インフルエンザ感受性調査	150	600	
		ポリオ感染源調査	72	72	
		新型コロナ感染源調査	104	104	
	感染症発生動向調査	定点	ウイルス分離検査	42	280
		定点以外	ウイルス分離検査	62	182
			新型コロナウイルス検査	63	63
	食品衛生検査		ウイルス検査	531	1,098
			原虫・寄生虫検査	1	1
			アニサキス同定検査	5	5
	寄生虫検査			0	0
	衛生動物検査			8	8
	花粉飛散量調査			130	241
	計		1,168	2,654	
細菌科	感染症等検査	腸管出血性大腸菌検査	37	259	
		その他三類感染症検査	2	8	
		薬剤耐性菌検査	10	50	
		レジオネラ属菌検査	2	8	
		結核菌検査	1	2	
	食品衛生検査	食中毒集団下痢検査	297	5,346	
		食品検査	0	0	
	医薬品等検査	無菌試験	1	4	
	浴槽水収去検査	レジオネラ属菌検査	47	188	
	食品収去検査	細菌検査	388	1,224	
	ふきとり検査	細菌検査	1,347	2,694	
	計		2,132	9,783	
合計			3,300	12,437	

1 ウイルス・衛生動物科

インフルエンザ流行予測感受性調査

令和6年7・8月に山梨県民150名(0～4歳群:0名、5～9歳群:3名、10～14歳群:17名、15～19歳、20～29歳群の各年齢群:各21名、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60歳以上の各年齢群:各22名)から採血した血清を検査材料とした。抗原は、インフルエンザワクチン株4株(A/Victoria/4897/2022 [A(H1N1)pdm09 亜型]、A/California/122/2022 [A(H3N2) 亜型]、B/Phuket/3073/2013 [B型(山形系統)]、B/Austria/1359417/2021 [B型(ビクトリア系統)])を用い、これらの株に対する血清中の赤血球凝集抑制(HI)抗体価を測定した。詳細は本書の研究報告を参照。(資料表2-1)

感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況

令和6年度に山梨県内の医療機関で感染症患者から採取された検体について、MDCK細胞を用いたウイルス分離を行った。

分離ウイルスについてRT-PCR法およびリアルタイムPCR法によりウイルス同定を行った。

インフルエンザウイルスはA(H1)pdm09 亜型が28検体検出され流行の中心となった。A(H3) 亜型は6検体検出され、B型についてはB型(ビクトリア系統)が2検体検出された。1検体ではA(H1)pdm09 亜型とB型(ビクトリア系統)ともに検出された。

令和6年8月にデングウイルス1型が海外渡航歴のある有症状者から検出された。また、12月にE型肝炎ウイルス、3月にA型肝炎ウイルスが検出された。

令和2年2月上旬より継続してリアルタイムPCR法による新型コロナウイルス検査を実施している。令和6年度は63検体の検査を実施し、51検体から検出された。

(資料表2-2)

食中毒・集団下痢症のウイルス等検査

令和6年度に保健所から依頼された食中毒、集団下痢症46事例の531検体について、リアルタイムPCR法およびRT-PCR法によるウイルス等の検出を行った。その結果、35事例からウイルス等が検出された。検出されたのは、ノロウイルスG IとノロウイルスG II、ロタウイルスA群であった。検出されたウイルスではノロウイルスG IIが最も多く、31事例から検出された。また、ノロウイルスG Iは1事例で検出された。ロタウイルスA群は2事例で検出された。また、ノロウイルスG IとノロウイルスG IIの混合検出事例が1事例発生した。(資料表2-3)

衛生動物・寄生虫及び食品衛生検査

同定依頼、駆除法および生態等についての問い合わせが18件(昆虫類5件、ダニ類2件、アニサキス5件、ナナホシクドア1件、その他5件)であった。内訳は衛生動物についての同定依頼が8件、電話相談が4件、食品衛生検査のアニサキス同定検査が5件、ナナホシクドア同定検査が1件であった。(資料表2-4)

花粉飛散量調査

甲府地区で実施した今季(2025.1.1～2025.5.10)の総飛散数は3372.6個/cm²(スギ花粉2850.6個/cm²、ヒノキ花粉522.0個/cm²)であった。これは前年(それぞれ960.3個/cm²、5440.4個/cm²)と比較してスギ花粉は3.0倍と多く、ヒノキ花粉は0.09倍と著しく少なかつた。(資料表2-5)

2 細菌科

感染症等に関する検査

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づいて、医療機関から保健所に届出があった全数報告の三～五類感染症の調査として、保健所から依頼された細菌検査を行った。

三類感染症では、腸管出血性大腸菌感染症患者、接触者等の糞便37検体について分離培養・同定試験を行い、分離菌株について毒素型別、血清型別、MLVA検査を行った。また、細菌性赤痢患者の糞便1検体について分離培養、細菌性赤痢疑い菌株1検体について同定試験を行った。

四類感染症では、レジオネラ症の患者喀痰2検体について、分離・同定を行った。

五類感染症では、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の分離菌株10検体について、菌種同定、薬剤感受性試験、耐性遺伝子及びカルバペネマーゼ産生性等の検査を行った。(資料表2-6)

山梨県結核菌検査実施要領に基づき、医療機関で分離された結核菌1株について薬剤感受性試験を行った。

食中毒・集団下痢症等の検査

食中毒疑い及び集団下痢症事例について、保健所から依頼された糞便等(110検体)、食品等(94検体)、ふきとり(93検体)の細菌検査を行った。糞便等からウェルシュ菌(11株)、黄色ブドウ球菌(2株)、カンピロバクター(6株)、下痢原性大腸菌(4株)、セレウス菌(1株)が分離された。また、食品、ふきとり等から黄色ブドウ球菌(1株)、カンピロバクター(1株)、セレウス

菌（2株）、サルモネラ属菌（1株）が分離された。（資料 表2-7）

食品・医薬品等に関する検査

「令和6年度医薬品・医療機器等一斉監視指導実施要領」に基づいて収去された真空採血管1検体について無菌試験を実施した結果、「基準適合」であった。（資料 表2-8）

浴槽水等のレジオネラ属菌検査

レジオネラ症患者発生に伴う関連調査で、保健所から依頼された浴槽水等及びふきとり47検体の検査を行ったが、レジオネラ属菌は分離されなかった。（資料 表2-9）

食品収去検査

「令和6年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された食品388検体について、一般生菌数、大腸菌群、E.coli等1,224項目の細菌検査を行った。（資料 表2-11）

ふきとり検査

施設の衛生指導を目的とした、まな板、包丁等1,347カ所のふきとり検体について、大腸菌群と黄色ブドウ球菌の検査を行ったところ、大腸菌群は130カ所（9.7%）、黄色ブドウ球菌は20カ所（1.5%）が陽性であった。

（資料 表2-10）

食品衛生外部精度管理

「試験検査等業務管理要綱」に基づき、（財）食品安全センター秦野研究所が実施した外部精度管理に参加した。模擬食材を対象に、7月に一般細菌数測定、9月に黄色ブドウ球菌、11月に大腸菌群を実施し、いずれも良好な結果であった。

環境科学部

試験検査 実績

科名	区分	小区分	行政試験	
			検体数	項目数
大気科	環境大気試験	大気汚染常時監視	524,377	524,377
		有害大気汚染物質	72	792
		アスベスト	12	28
		PM2.5成分	108	1,080
	発生源試験	事業所排ガス	3	28
		騒音、振動、悪臭調査	0	0
		パネル選定試験	8	40
	環境放射能試験	放射能常時監視（モニタリングポスト）	365	365
		環境試料	23	1,449
		降水	92	92
		精度管理模擬試料	7	145
		事故対応（サーベイメータ）	0	0
水質科	その他	事故、苦情等	0	0
		受託調査	6	27
	計		525,073	528,423
	環境水質試験	公共用水、地下水	540	7,800
		富士五湖	142	6,268
廃棄物科	その他	事故、苦情等	63	209
		受託調査	3	36
	計		748	14,313
	廃棄物試験	焼却灰	0	0
	土壤試験	事故、苦情等	6	30
排水試験	排水試験	事業所	163	1,134
		一般廃棄物処理施設	5	34
		産業廃棄物処理施設	2	80
	その他	不法投棄、事故、苦情等	9	193
	計		185	1,471
合 計			526,006	544,207

1 大気科

環境大気試験

大気汚染常時監視局10局の機器の稼働状況を確認するとともに、オキシダント濃度、窒素酸化物濃度、微小粒子状物質($PM_{2.5}$)濃度などのデータの確定作業を行った。

微小粒子状物質($PM_{2.5}$)の注意喚起実施地域区分の見直しのため、峡南地域を対象にデータ収集及び解析を行った。

また、有害大気汚染物質のうち、ベンゼンなど11物質について、延べ72検体を測定した。

アスベストは、一般環境1地点で12検体の濃度を測定した。

発生源試験

事業場のばい煙発生施設3施設で、排ガス中の窒素酸化物などの規制物質等を測定した。

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、甲府市内で大気汚染物質を採取した。調査結果は環境省から公表される。

放射能水準調査(福島原発事故対応モニタリング調査を含む)

原子力規制庁からの委託事業として、モニタリングポートで放射線量を常時監視した。

また、月間降下物、土壤、上水、農畜産物、大気浮遊粉じんなどの環境試料23検体の放射性元素を測定した。

さらに降水を対象に延べ92回の測定を行った。

これらの結果は、原子力規制庁から公表されている。

放射能精度管理試験

公益財団法人日本分析センターが配布する放射能試料7検体を測定し、分析精度を確認した。

パネル選定試験

臭気指数測定におけるパネル(官能試験者)を選ぶための嗅覚検査を延べ8人に対して行った。

2 水質科

環境水質試験

河川、湖沼の公共用水域及び地下水の延べ540検体について、環境基準項目等を測定した。

また、これに加え、湖沼の富栄養化等を監視する目的で、富士五湖を対象に延べ142検体について、水質等を測定した。

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、甲府市内の河川で底質を採取した。調査結果は環境省から公表される。

苦情、事故等に伴う検査

公共用水域や地下水の水質汚濁事案に関する水質等の検査を63検体について行った。(資料表3)

3 廃棄物科

土壤試験

土壤汚染事案に関する有害物質等の検査を6検体について行った。(資料表3)

排水試験

事業場の排水163検体、し尿処理施設、最終処分場等の廃棄物処理施設の排水7検体の検査を行った。

苦情、事故等に伴う検査

既存の廃棄物不適正処理現場やその周辺の公共用水域の水質等の検査を8検体について行った。

また、汚泥の流出事案に関する有害物質等の検査を1検体について行った。(資料表3)

III 資 料

表1-1 令和6年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果

表1-2 令和6年度 山梨県内流通輸入食品（農産物・冷凍食品）残留農薬試験結果

表1-3 令和6年度 食品の理化学検査結果

表2-1 令和6年度 インフルエンザ流行予測調査結果

表2-2 令和6年度 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況と臨床像

表2-3 令和6年度 食中毒・集団下痢症のウイルス等検査

表2-4 令和6年度 衛生動物・寄生虫等検査結果

表2-5 令和7年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量別日数及び平均値

表2-6 令和6年度 細菌感染症等に関する検査結果

表2-7 令和6年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果

表2-8 令和6年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果

表2-9 令和6年度 浴槽水等レジオネラ属菌検査結果

表2-10 令和6年度 ふきとり検査結果

表2-11 令和6年度 収去食品の細菌検査件数

表3 令和6年度 環境汚染に係る苦情、事故等に伴う検査

表1-1 令和6年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果

食品名 検体数	だいこん 3	きゅうり 3	とうとう 4	にんじん 2	なす 1	すもも 5
アクリナトリン	—	—	—	—	—	—
アゾキシストロビン	—	—	0.04-0.1(2)	0.002(1)	—	0.04-0.1(2)
イプロジオン	—	—	—	—	—	—
イミダクロブリド	—	0.002(1)	—	—	—	0.005(1)
クレソキシムメチル	—	—	—	—	—	—
クロラントラニリブロール	—	—	—	—	—	—
クロルフェナビル	—	—	—	—	—	—
シアゾニアミド	—	—	—	—	—	—
シフルフェナミド	—	—	—	—	—	—
シブロジニル	—	—	0.002(1)	—	—	—
シメコナゾール	—	0.02(1)	—	—	—	—
スピノサド	—	0.02(1)	—	—	—	—
ダイアジノン	—	—	0.001(1)	—	—	—
チアクロブリド	—	—	—	—	—	0.001-0.01(5)
チアメトキサム	—	0.005(1)	—	—	0.005(1)	—
テブコナゾール	—	—	0.002-0.2(3)	—	—	0.01(1)
テブフェンピラド	—	0.002(1)	—	—	—	—
テフルトリン	0.002(3)	—	—	—	—	—
デルタメトリン及びトラロメトリン	—	—	—	—	—	0.005-0.006(2)
ビテルタノール	—	—	—	—	—	—
ビフェントリン	—	0.006(1)	0.03-0.04(2)	—	—	0.003(1)
ピラクロストロビン	—	—	—	—	—	—
フェンブコナゾール	—	—	—	—	—	0.002-0.006(2)
ブタミホス	—	0.002(1)	—	—	—	—
ブロフェジン	—	—	0.005(1)	—	—	—
フルジオキソニル	—	—	—	—	—	—
フルフェノクスロン	—	—	—	—	—	—
プロシミドン	—	0.002(1)	—	—	—	—
ペルメトリン	—	0.004(1)	—	—	—	0.1(1)
ボスカリド	—	—	—	—	—	—
ホスチアゼート	—	—	—	0.009(1)	—	—
メタラキシル及びメフェノキサム	—	—	—	0.01(1)	—	—
メチダチオン	—	—	—	—	—	—
リニュロン	—	—	—	0.02(1)	—	—

食品名 検体数	トマト 2	もも 6	ぶどう 9	キャベツ 2	かき 2
アクリナトリン	—	0.007(1)	—	—	0.01(1)
アゾキシストロビン	—	0.004-0.005(3)	0.007-0.05(2)	—	—
イプロジオン	0.01(1)	—	—	0.03(1)	—
イミダクロブリド	—	—	0.01-0.02(2)	0.002(2)	—
クレソキシムメチル	—	—	—	—	0.01(1)
クロラントラニリブロール	—	0.006(1)	0.01(1)	—	—
クロルフェナビル	—	—	0.007-0.05(3)	—	—
シアゾニアミド	—	—	0.04(1)	—	—
シフルフェナミド	0.002(1)	—	—	—	—
シブロジニル	—	—	0.003-0.04(3)	—	—
シメコナゾール	—	—	—	—	—
スピノサド	—	0.02(2)	—	—	—
ダイアジノン	—	—	—	—	—
チアクロブリド	—	—	0.003(1)	—	—
チアメトキサム	—	—	—	—	—
テブコナゾール	—	0.09-0.1(2)	0.002-0.01(3)	—	0.005(1)
テブフェンピラド	—	—	—	—	—
テフルトリン	—	—	—	—	—
デルタメトリン及びトラロメトリン	—	—	0.004-0.01(2)	—	—
ビテルタノール	—	0.004(1)	—	—	—
ビフェントリン	—	—	0.03(1)	—	0.008(1)
ピラクロストロビン	0.004(1)	0.002(1)	—	—	—
フェンブコナゾール	—	—	0.001(1)	—	—
ブタミホス	—	—	—	—	—
ブロフェジン	—	0.008-0.02(3)	—	—	—
フルジオキソニル	—	—	0.008-0.03(3)	—	—
フルフェノクスロン	—	0.007-0.1(6)	—	—	—
プロシミドン	—	—	—	0.006(1)	—
ペルメトリン	—	0.002-0.009(3)	0.002-0.01(2)	—	—
ボスカリド	0.01(1)	—	—	—	—
ホスチアゼート	—	—	—	—	—
メタラキシル及びメフェノキサム	—	—	—	—	—
メチダチオン	—	0.004(1)	—	—	—
リニュロン	—	—	—	—	—

()内は検出数

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

きゅうり(1検体)、トマト(2検体)、とうもろこし(1検体)、もも(1検体)、なす(2検体)、ぶどう(1検体)、かぼちゃ(1検体)、だいこん(1検体)、キウイ(2検体)

表1-2 令和6年度 山梨県内流通輸入食品（農産物・冷凍食品）残留農薬試験結果

食品名	冷凍ほうれんそう	冷凍いんげん	バナナ	オレンジ	グレープフルーツ
検体数	1	1	2	1	1
アゾキシストロビン	—	—	0.09(1)	—	—
イミダクロプリド	0.1(1)	—	—	0.01(1)	0.002(1)
クロチアニジン	0.004(1)	—	—	—	—
クロルビリホス	0.002(1)	—	—	—	—
シハロトリン	—	—	0.03(1)	—	—
ピラクロストロビン	—	—	—	—	0.06(1)
ピリプロキシフェン	—	—	—	0.02(1)	—
メタラキシル及びメフェノキサム	0.02(1)	0.002(1)	—	—	—

()内は検出数

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

冷凍ブロッコリー(1検体)、冷凍さといも(1検体)、キウイ(2検体)、バナナ(1検体)、オレンジ(1検体)

表1-3 令和6年度 食品の理化学検査結果

取去者	衛生業務課															保健所	合計						
	乳・乳製品	アイスクリーム類	生あん類	菓子類	果実酒・雑酒	食肉製品	こんにゃく粉	魚肉ねり製品	清涼飲料水・果汁	ミネラルウォーター	調味料	漬物	加圧殺菌食品	容器包装詰加熱	あんぽ柿・こう柿	めん類	乾燥果実	おもちゃ	器具及び容器包装	かんきつ類			
分類																				小計	魚肉ねり製品	めん類	
検体数	8	2	4	1	73	11	2	6	23	33	4	16	1	12	6	4	3	4	4	217	0	7	224
二酸化硫黄			4		73		2								12		4			95			95
ソルビン酸					73	11		6				1	16	1			4			112			112
安息香酸									23			4	16	1						44			44
パラオキシ安息香酸									23			4	16	1						44			44
サッカリンナトリウム																				0			0
プロピレングリコール																6				6		7	13
タル色素				1			1					9				2				13			13
亜硝酸根					11															11			11
混濁									23											23			23
沈殿物及び固形の異物									23											23			23
ヒ素									23							3				26			26
鉛									23							3	4			30			30
カドミウム																1	4			5			5
スズ																				0			0
PH									23											23			23
乳脂肪分	8	2																		10			10
無脂乳固形分	8	2																		10			10
比重	1																			1			1
酸度	1																			1			1
シアノ化合物			4																	4			4
防ぼい剤																	4	4					4
MW規格										1518										1518			1518
フタル酸エスチル類																				0			0
亜鉛																				0			0
フェノール																				0			0
ホルムアルデヒド																				0			0
パツリン																				0			0
合計	18	4	8	1	146	22	2	7	161	1518	9	57	3	12	6	10	7	8	4	2,003	0	7	2,010

表2-1 令和6年度 インフルエンザ流行予測調査結果

1 : A/Victoria/4897/2022 (A (H1N1) pdm09亜型) 株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	HI 抗体 価							≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320		
5~9	3	1	1	0	1	0	0	0	2 (66.7)	1 (33.3)
10~14	17	10	5	0	1	1	0	0	7 (41.2)	2 (11.8)
15~19	21	8	9	1	2	0	0	1	13 (61.9)	3 (14.3)
20~29	21	10	6	2	2	0	1	0	11 (52.4)	3 (14.3)
30~39	22	16	4	2	0	0	0	0	6 (27.3)	0 (0.0)
40~49	22	18	2	1	1	0	0	0	4 (18.2)	1 (4.5)
50~59	22	15	5	2	0	0	0	0	7 (31.8)	0 (0.0)
60~	22	18	2	2	0	0	0	0	4 (18.2)	0 (0.0)
全年齢層	150	96	34	10	7	1	1	0	54 (36.0)	10 (6.7)

2 : A/California(カリフォルニア) /122/2022 (A (H3N2) 亜型) 株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	HI 抗体 価							≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320		
5~9	3	0	0	2	1	0	0	0	3 (100.0)	1 (33.3)
10~14	17	0	4	4	4	3	0	2	0	17 (100.0)
15~19	21	1	9	3	2	2	3	1	0	20 (95.2)
20~29	21	8	4	3	3	1	2	0	0	13 (61.9)
30~39	22	8	3	4	6	1	0	0	0	14 (63.6)
40~49	22	8	6	3	2	1	2	0	0	14 (63.6)
50~59	22	12	1	1	4	2	1	1	0	10 (45.5)
60~	22	9	5	3	4	1	0	0	0	13 (59.1)
全年齢層	150	46	32	23	26	11	8	4	0	104 (69.3)
										49 (32.7)

3 : B/Phuket/3073/2013(B型 (山形系統)) 株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	HI 抗体 価							≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320		
5~9	3	3	0	0	0	0	0	0	0 (0.0)	0 (0.0)
10~14	17	4	0	10	3	0	0	0	13 (76.5)	3 (17.6)
15~19	21	10	0	7	1	3	0	0	11 (52.4)	4 (19.0)
20~29	21	3	0	9	8	0	1	0	18 (85.7)	9 (42.9)
30~39	22	3	0	5	9	5	0	0	19 (86.4)	14 (63.6)
40~49	22	6	0	11	1	4	0	0	16 (72.7)	5 (22.7)
50~59	22	2	0	17	1	2	0	0	20 (90.9)	3 (13.6)
60~	22	8	0	9	4	1	0	0	14 (63.6)	5 (22.7)
全年齢層	150	39	0	68	27	15	1	0	0	111 (74.0)
										43 (28.7)

4 : B/Austria/1359417/2021(B型 (ビクトリア系統)) 株に対するHI抗体価

年齢層 (歳)	例数	HI 抗体 価							≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320		
5~9	3	3	0	0	0	0	0	0	0 (0.0)	0 (0.0)
10~14	17	12	0	3	2	0	0	0	5 (29.4)	2 (11.8)
15~19	21	14	0	3	2	2	0	0	7 (33.3)	4 (19.0)
20~29	21	16	2	0	3	0	0	0	5 (23.8)	3 (14.3)
30~39	22	20	1	1	0	0	0	0	2 (9.1)	0 (0.0)
40~49	22	18	2	1	1	0	0	0	4 (18.2)	1 (4.5)
50~59	22	12	3	3	1	0	0	0	10 (45.5)	4 (18.2)
60~	22	13	4	1	1	1	1	0	9 (40.9)	4 (18.2)
全年齢層	150	108	12	12	12	4	1	1	0	42 (28.0)
										18 (12.0)

表2-2 令和6年度 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況と臨床像

	検体数	2024年						2025年						合計	臨床像
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
イソフランザウイルス ^(*)															
A(H1)pdm09	16	20	11	3	10	14	11	26	17	30	4	5	167		
A(H3)亜型	1									10	13	3	26		
B型ピクトリア系統	5								1	3	1	2	7		
B型山形系統	1										2		9		
ヒトメヌードウイルス ^(*)	6												0		
エンテロウイルス ^(*)	D60型							1					6	発熱、咽頭炎	
型別不明									1				1	急性脳炎	
ウーライノウイルス ^(*)													1	皰膜炎、咽頭炎	
イルアデノウイルス ^(*)	54型							1					1	弛緩性麻痺	
ス56型													1		
新型コロナウイルス ^(*)													1	流行性角結膜炎	
A型肝炎ウイルス ^(*)	IB型												1		
E型肝炎ウイルス ^(*)	G3型												1	全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝機能異常	
水痘带状疱疹ウイルス ^(*)													1	発熱、全身倦怠感、食欲不振	
デングウイルス ^(*)	1型												2	発熱、発疹	
合計	10	12	3	3	9	10	4	9	14	23	4	5	106	1	デング様症状

(※1)PCR法で遺伝子検出

(※2)リアルタイムPCR法で遺伝子検出

表2-3 令和6年度 食中毒・集団下痢症のウイルス等検査

月日	依頼機関	検体数	検体				検出ウイルス*	検出数
			糞便	吐物	食品	ふきとり		
4.1	甲府市保健所	14	9			5	ノロウイルスG I ノロウイルスG I	3
	中北保健所	2	2					2
	峡東保健所	2	2					0
	峡南保健所	1	1				ノロウイルスG I	1
4.11	中北保健所	2	2				ノロウイルスG II	2
5.23	富士・東部保健所	5	5				ノロウイルスG II	4
6.4	富士・東部保健所	3	2	1			ノロウイルスG II	2
6.14	富士・東部保健所	4	4				ロタウイルスA群	4
7.4	中北保健所	18	16			2		0
7.17	甲府市保健所	8	8				ノロウイルスG II	3
9.4	富士・東部保健所	1	1					0
10.6	富士・東部保健所	2	2					0
10.18	中北保健所	73	7	42	24			0
10.18	中北保健所	2	2				ノロウイルスG II	2
10.29	富士・東部保健所	32	12	11	9			0
11.12	峡東保健所	5	5				ノロウイルスG II	5
11.25	甲府市保健所	7	2			5		0
	峡東保健所	1	1					0
11.25	甲府市保健所	5				5		0
	中北保健所	1	1					0
12.9	峡東保健所	9	9				ノロウイルスG II	9
12.25	富士・東部保健所	2	2				ノロウイルスG II	2
1.15	峡東保健所	5	5				ノロウイルスG II	4
1.21	峡東保健所	8	8				ノロウイルスG II	7
1.24	峡南保健所	2	2					0
1.24	中北保健所	4	4				ノロウイルスG II	4
1.24	甲府市保健所	13	7	6				0
2.4	峡東保健所	5	5				ノロウイルスG II	3
2.8	富士・東部保健所	25	7	3	15		ノロウイルスG I ノロウイルスG II	1
							ノロウイルスG II	5
2.10	甲府市保健所	1	1				ノロウイルスG II	1
2.14	富士・東部保健所	3	3					0
2.17	甲府市保健所	21	15		6		ノロウイルスG II	7
2.18	甲府市保健所	11	5		6		ノロウイルスG II	4
2.18	峡東保健所	17	12		5		ノロウイルスG II	5
2.20	甲府市保健所	5	5				ノロウイルスG II	4
2.21	富士・東部保健所	7	7				ノロウイルスG II	7
2.21	富士・東部保健所	20	5	15			ノロウイルスG II	1
2.26	峡東保健所	2	2				ノロウイルスG II	2
	甲府市保健所	8	2		6		ノロウイルスG II	1
	中北保健所	6	6				ノロウイルスG II	5
2.27	中北保健所	7	7				ノロウイルスG II	6
3.3	峡東保健所	3	3				ノロウイルスG II	2
3.6	富士・東部保健所	6	6				ノロウイルスG II	6
3.6	富士・東部保健所	4	4				ノロウイルスG II	4
3.7	中北保健所	7	7				ノロウイルスG II	7
3.11	中北保健所	6	6				ノロウイルスG II	5
3.12	中北保健所	8	8				ノロウイルスG II	3
3.14	甲府市保健所	6	6					0
3.18	富士・東部保健所	55	28	17	10		ノロウイルスG II	7
3.25	甲府市保健所	5	5				ロタウイルスA群	3
3.25	峡南保健所	33	10	18	5		ノロウイルスG II	6
3.26	峡南保健所	24	19		5		ノロウイルスG II	13
3.28	中北保健所	5	5				ノロウイルスG II	5
	合計	531	310	0	92	129		167

*検出方法は全てリアルタイムPCR法

表2-4 令和6年度 衛生動物・寄生虫等検査結果

分類	昆虫類	ダニ類	その他	同定不能	アニサキス	ナナホシクドア	計
食品異物	0	0	0	0	0	0	0
衛生動物	3	2	3	0	0	0	8
寄生虫	0	0	0	0	0	0	0
電話相談	2	0	2	0	0	0	4
食品衛生	—	—	—	—	5	1	6
計	5	2	5	0	5	1	18

(衛生動物・寄生虫等検査結果内訳)

月 日	依頼機関	数量	結果	備考
4/19	甲府市	1	電話相談	ユスリカ幼虫の侵入防止策について
4/23	中北保健所	3	アニサキス	食品衛生検査
4/23	峡東林務環境事務所	1	コゲチャオニグモ	ハイイロゴケグモ疑い
5/29	富士・東部林務環境事務所	3	エゾアカヤマアリ	ヒアリ疑い
6/21	峡東保健所	1	アニサキス	食品衛生検査
6/21	峡南保健所	1	タカサゴキララマダニ	医療機関からの同定依頼
7/ 6	峡東林務環境事務所	1	カニグモ科ケモ	ハイイロゴケグモ疑い
8/21	県民	1	電話相談	日本住血吸虫症関連
8/23	峡東保健所	1	アニサキス	食品衛生検査
8/26	峡南林務環境事務所	1	女王アリ(虫体破損により同定困難)	ヒアリ疑い
8/30	峡東林務環境事務所	1	キイロシリアゲアリ	ヒアリ疑い
9/12	富士・東部保健所	1	マダニ属(虫体破損により同定困難)	手を咬まれた
10/15	県民	1	電話相談	日本住血吸虫症関連
10/21	中北保健所	1	アニサキス	食品衛生検査
10/29	富士・東部保健所	3	ナナホシクドア	食品衛生検査
12/ 6	中北林務環境事務所	1	セアカゴケグモ(雌成グモ)	確定検査
12/26	甲府市	1	電話相談	蚊の感染防止について
3/28	甲府市保健所	1	アニサキス	食品衛生検査

表2-5 令和7年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量別日数及び平均値

測定期間 月/日～月/日	花粉量		スギ・ヒノキ花粉飛散量別日数						1日当たり花粉飛散平均値	
	スギ	ヒノキ	微量 0~1	少ない ~10	やや多い ~30	多い ~50	非常に多い ~100	極めて多い 100>	スギ	ヒノキ
第1週 1/ 1 ~ 1/ 7	0.0	0.0	7						0.0	0.0
2 1/ 8 ~ 1/14	0.0	0.0	7						0.0	0.0
3 1/15 ~ 1/21	0.0	0.0	7						0.0	0.0
4 1/22 ~ 1/28	0.2	0.0	7						0.0	0.0
5 1/29 ~ 2/ 4	0.0	0.0	7						0.0	0.0
6 2/ 5 ~ 2/11	0.2	0.0	7						0.0	0.0
7 2/12 ~ 2/18	5.8	0.0	4	3					0.8	0.0
8 2/19 ~ 2/25	30.8	0.0	6		1				4.4	0.0
9 2/26 ~ 3/ 4	891.0	4.7	1	1	1		1	3	127.3	0.7
10 3/ 5 ~ 3/11	389.4	0.9		5	1			1	55.6	0.1
11 3/12 ~ 3/18	953.5	1.5	1	1	2		2	1	136.2	0.2
12 3/19 ~ 3/25	443.3	47.8		1			5	1	63.3	6.8
13 3/26 ~ 4/ 1	110.4	74.8	1	1	1	4			15.8	10.7
14 4/ 1 ~ 4/ 8	23.4	182.6		1	4	1		1	3.3	26.1
15 4/ 8 ~ 4/15	1.8	90.6	1	1	5				0.3	12.9
16 4/15 ~ 4/22	0.6	83.2		4	3				0.1	11.9
17 4/22 ~ 4/29	-	30.9	2	5					-	4.4
18 4/29 ~ 5/ 6	-	4.5	5	2					-	0.6
19 5/ 6 ~ 5/10	-	0.5	4						-	0.1
合 計	2850.4	522.0	67	25	18	5	8	7	407.1	74.5

-:観測終了(飛散終了日に伴う)

観測場所:衛生環境研究所屋上 花粉量:1cm²あたりの換算値(個)

表2-6 令和6年度 細菌感染症等に関する検査結果

月 日	依頼機関	疾病名	検体数		結果
			臨床検体	菌株	
4/1	峡東保健所	細菌性赤痢	1		-
4/5	甲府市保健所	EHEC感染症	1		-
4/16	甲府市保健所	EHEC感染症	1		-
4/22	甲府市保健所	EHEC感染症	1		-
5/14	中北保健所	EHEC感染症	2		-
6/14	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>Enterobacter cloacae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
6/21	甲府市保健所	レジオネラ症	1		-
7/4	峡東保健所	CRE感染症		1	<i>K. pneumoniae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
7/8	中北保健所	EHEC感染症	8	2	EHEC O157:H7 (Stx1,2), EHEC O26:H11 (Stx1)
7/8	富士・東部保健所	EHEC感染症	2	1	EHEC O157:H7 (Stx1,2)
7/8	中北保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
7/12	甲府市保健所	レジオネラ症	1		-
7/12	中北保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
7/12	中北保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
7/24	甲府市保健所	細菌性赤痢		1	-
8/23	峡南保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
8/23	甲府市保健所	VRE感染症		1	<i>Enterococcus faecium</i> (VanA型)
9/2	富士・東部保健所	EHEC感染症	1		-
9/9	中北保健所	CRE感染症		1	<i>Enterobacter cloacae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
9/25	中北保健所	EHEC感染症	6	1	EHEC O157:H7 (Stx1,2)
10/30	甲府市保健所	CRE感染症		1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
11/12	富士・東部保健所	EHEC感染症		1	EHEC O112ac:H16 (Stx2)
11/28	甲府市保健所	EHEC感染症	1		-
11/29	甲府市保健所	EHEC感染症	1		EHEC O157:HNT (Stx2)
12/4	甲府市保健所	EHEC感染症	1		EHEC O157:HNT (Stx2)
12/12	甲府市保健所	EHEC感染症	1		-
12/18	甲府市保健所	EHEC感染症	1		-
12/24	峡東保健所	CRE感染症		1	<i>Serratia marcescens</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
1/6	中北保健所	EHEC感染症	4	1	EHEC OUT:H2 (Stx2)
2/25	峡東保健所	CRE感染症		1	<i>Enterobacter cloacae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
合計			34	18	

EHEC : 腸管出血性大腸菌 CRE : カルバペネム耐性腸内細菌目細菌

表2-7 令和6年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果

月 日	依頼機関	検 体 数			計	検 出 菌	
		臨床検体	食品	その他		臨床検体(株数)	食品・その他(株数)
4/1	甲府市保健所		5	5			-
4/11	中北保健所	2		2		-	-
6/4	富士・東部保健所	2	1	3		-	-
7/4	中北保健所	22	16	2	40	<i>C. perfringens</i> (11) <i>S. aureus</i> (1) <i>B. cereus</i> (1) astA保有大腸菌 OUT (1)	<i>B. cereus</i> (2)
9/4	富士・東部保健所	1		1		-	-
10/6	富士・東部保健所	2		2		-	-
10/7	中北保健所		9	12	21		-
10/18	中北保健所	2			2	<i>C. jejuni</i> (2)	-
10/18	中北保健所			15	15		-
10/18	中北保健所	2			2	-	-
10/18	中北保健所			9	9		-
10/19	中北保健所	3		3		-	-
10/20	中北保健所	2		2		-	-
10/21	中北保健所		42		42		<i>S. Schwarzengrund</i> (1)
10/29	富士・東部保健所	12	11	9	32	-	-
11/25	甲府市保健所	8		5	13	<i>C. jejuni</i> (1)	-
11/25	中北保健所	1			1	EAggEC O126 (1)	-
11/25	甲府市保健所	1		5	6	-	-
11/25	峡東保健所	1			1	<i>C. coli</i> (1)	-
1/24	峡南保健所	2			2	EPEC OUT (1) <i>S. aureus</i> (1)	-
1/24	甲府市保健所	7		6	13	<i>C. coli</i> (1)	-
2/10	甲府市保健所	1			1	-	-
2/14	富士・東部保健所	3			3	EAggEC OUT (2)	-
2/26	甲府市保健所			6	6		-
2/26	中北保健所	5			5	-	-
3/14	甲府市保健所	3			3	-	-
3/14	甲府市保健所			9	9		-
3/18	富士・東部保健所		15		15		<i>C. jejuni</i> (1)
3/18	富士・東部保健所			10	10		<i>S. aureus</i> (1)
3/18	富士・東部保健所	28			28	<i>C. jejuni</i> (1)	
合計		110	94	93	297		

EPEC:腸管病原性大腸菌 EAEC:腸管凝集付着性大腸菌

表2-8 令和6年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果

月 日	依頼機関	検査項目	検体	検体数	結果
1/23	衛生薬務課	無菌試験	真空採血管	1	基準適合
		合 計		1	

表2-9 令和6年度 沐槽水等レジオネラ属菌検査結果

採水日	依頼機関	検体数	陽性検体数
6/21	甲府市保健所	6	0
8/23	富士・東部保健所	11	0
9/11	富士・東部保健所	17	0
10/10	中北保健所	7	0
12/19	甲府市保健所	6	0
合計		47	0

表2-10 令和6年度 ふきとり検査結果

依頼機関	大腸菌群		黄色ブドウ球菌	
	検査数	陽性数(%)	検査数	陽性数(%)
衛生薬務課	1,034	105(10.2)	1,034	9(0.9)
保健所	313	25(8.0)	313	11(3.5)
合計	1,347	130(9.7)	1,347	20(1.5)

表2-11 令和6年度 収去食品の細菌検査件数

収去区分	分類	検体数	一般 生菌数	大腸菌群	E.coli	腸管出血性大腸菌			黄色 プドウ球菌	セレカス菌	サルモネラ属菌	クロストリジウム属菌	リステリア・モザイク	腸炎ビブリオ	細菌 (最強数)	Ecoli 物質	抗生 物質	乳酸 菌数	増菌培養	腸炎ビブリオ (最強数)	微生物	合計	
						O26	O103	O111															
生食用魚介類	4																					4	4
生食用力士	3	3																				3	9
魚肉ねり製品	6		6																				6
食肉製品	11		1	10	4	4	4	4	10													56	
凌卵	1	1																				1	1
牛乳	1	1	1																			2	2
乳飲料	4	4	4																			8	
発酵乳	3		3																			3	6
アイスクリーム	1	1	1																			2	
ラクトアイス	1	1	1																			2	
氷菓	2	2	2																			4	
衛 生	2	2	2																			4	
めん類	9	9	3	6																		27	
そうざい(加熱処理)	74 (2)	74 (2)		74	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	384 (2)		
そうざい(非加熱処理)	12 (4)	12 (4)	12 (4)	12	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	54 (4)		
弁当類	48	48		48	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	213		
包装豆腐	3	3	3																			6	
その他の豆腐	2	2	2																			4	
課 漬物、一夜漬け	3																					6	
力ツト野菜	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9		
生菓子	12	12	12																			36	
冷凍食品	13	13	6	7																		26	
ミネラルウォーター	33 (1)	33 (1)	33 (1)	33																		66 (1)	
清涼飲料水	23		23																			23	
ナチュラルチーズ	3																					3	
その他の中華菓子	4	4	4																			12	
容器包装詰加工加熱殺菌食品	1																					1	
抗生素質	28																					28	
小計	308 (7)	226 (7)	107	161	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	3		
アイスクリーム	5	5	5																			10	
アイスミレク	8 (1)	8	8 (1)																			16 (1)	
(ラクトアイス	2	2	2																			4	
食 そうざい(加熱処理)	16	16		16																		48	
品 そうざい(非加熱処理)	2	2	2																			6	
健 卍弁当類	5	5	5																			20	
生 菓子	14	14	14																			42	
所 調理パン	11 (2)	11 (2)	11																			33 (2)	
車 包装豆腐	1	1	1																			2	
～ その他の中華菓子	7 (1)	7 (1)	7 (1)																			14 (2)	
めん類	9 (1)	9 (1)	2	7																		27 (1)	
小計	80 (5)	80 (4)	39 (2)	41																		222 (6)	
合 計	338 (12)	306 (11)	146 (2)	202	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	1,124 (13)		

()内は、「規格基準」又は「山梨県食品指導基準」に適合していない数

表3 令和6年度 環境汚染に係る苦情、事故等に伴う検査

月 日	場 所	種 別	摘 要	検体	項目
4/ 8	笛吹市	水質汚濁	地下水水質調査	2	10
4/ 9	笛吹市	水質汚濁	地下水水質調査	1	5
4/17	早川町	水質汚濁	地下水水質調査	8	24
4/17	早川町	水質汚濁	公共用水域水質調査	2	6
4/17	南アルプス市	水質汚濁	地下水水質調査	2	6
4/22	南アルプス市	水質汚濁	地下水水質調査	10	30
5/15	早川町	水質汚濁	地下水水質調査	3	9
7/ 3	甲州市	水質汚濁	公共用水域泥状物調査	1	1
7/ 3	甲州市	水質汚濁	公共用水域水質調査	2	18
7/19	中央市	水質汚濁	公共用水域水質調査	1	1
7/19	中央市	廃棄物	汚泥成分調査	1	3
10/16	笛吹市	水質汚濁	地下水水質調査	2	10
11/11	韮崎市	水質汚濁	地下水水質調査	4	12
2/ 6	韮崎市	水質汚濁	地下水水質調査	2	8
2/17	笛吹市	水質汚濁	公共用水域水質調査	3	9
2/17	笛吹市	土壤汚染	土壤汚染源調査	2	10
2/21	早川町	水質汚濁	公共用水域水質調査	4	12
2/21	早川町	水質汚濁	地下水水質調査	2	6
3/ 8	南アルプス市	土壤汚染	土壤汚染源周辺調査	4	20
3/10	甲斐市	水質汚濁	地下水水質調査	14	42
合 計				70	242

*既存の廃棄物不適正処理現場及び周辺の水質等の検査を除く

IV 論文抄録および学会発表

論 文 抄 錄

食品および環境水からの*Escherichia albertii*分離法の検討および分離株の解析

新井沙倉、溝脇朗人、佐伯美由紀、木全恵子、柳本恵太、原田誠也、山谷聰子、床井由紀、福留智子、長岡宏美、山田香織、濱夏樹、山中拓哉、土屋彰彦、浅野由紀子、中村由紀子、松永典久、高良武俊、今野貴之、小西典子、土井りえ、廣瀬昌平、工藤由起子

Escherichia albertii is an emerging enteropathogen and its distribution in various foods and environmental samples has been reported in many regions around the world. In this study, we aimed to identify effective isolation and detection methods for *E. albertii* in various foods and environmental water samples. *E. albertii*-specific polymerase chain reaction (PCR) was positive in chicken, oyster, river water, and wastewater samples, and *E. albertii* was isolated from these PCR-positive samples except the wastewater sample. *E. albertii* was not isolated from any of the samples without screening PCR; therefore, PCR is useful for the detection and isolation of *E. albertii* in foods and environmental water samples. The effect of two-step enrichment with four kinds of selective enrichment broth was compared with cycle threshold (Ct) values of the *E. albertii*-specific real-time PCR assay and the isolation results. The Ct values in three out of five samples were lower in the second enriched culture than those of the first enriched culture, and *E. albertii* was isolated from enriched cultures showed Ct values <25. These results suggest that the population of *E. albertii* in these three samples increased in the second enriched culture compared with the first enriched culture, and isolating *E.*

albertii from an enriched culture showing Ct values <25 is an efficient method. Genetic analysis was performed to *E. albertii* isolates from food, environmental water, and human fecal samples, and all the isolates possessed *eae*, and isolates from chicken, pork, and river water samples showed the same EA0g type as *E. albertii* isolated from human fecal samples. Therefore, it was suggested that a continuous attention should be paid to *E. albertii* in food and environment.

日本食品微生物学会誌, 41(2), 1-12, (2024)

浴槽水等のレジオネラ属菌検査におけるレジオラート/QT法と平板培養法の比較検討

淀谷雄亮、西里恵美莉、小嶋由香、佐々木麻里、蔡国喜、井原基、田栗利紹、柳本恵太、緒方喜久代、武藤千恵子、梅津萌子、高久靖弘、山口友美、前川純子

レジオネラ属菌の検査で広く用いられる平板培養法と、*Legionella pneumophila*を定量的に検出する簡便なキットであるレジオラート/QT法について比較検討した。2019年から2021年にかけて国内で採取された浴槽水等685検体について検討したところ、平板培養法と比較したレジオラート/QT法の感度は70.9%、特異度は92.2%であり、結果一致率は85.3%であった。検出菌量は強い相関が認められ、不一致であった検体の73.3%は30 CFU/100 mL又は30 MPN/100 mL未満であった。レジオラート/QT法は浴槽水等において平板培養法と同等の検査法であり、複雑な平板培養法に代わる検査法となりうる。

日本防菌防黴学会誌, 53(1), 3-8, (2025)

学 会 発 表

山梨県における食品中放射性物質調査（2011～2023）

○小泉美樹、山本敬男

（第61回全国衛生化学技術協議会年会, 2024. 11. 21～22）

令和5年度室内空気環境汚染に関する全国実態調査

○大嶋真浩、高木規峰野、酒井信夫、内山奈穂子、千葉真弘、西堀祐司、宮手公輔、大槻良子、橋本レイコ、大竹正芳、角田徳子、上村仁、田中礼子、高居久義、三宅崇弘、堀井裕子、望月映希、羽田好孝、山本優子、若山貴成、吉田俊明、古市裕子、吉野共広、伊達英代、谷脇妙、島田友梨、出口雄也、田崎盛也

（第61回全国衛生化学技術協議会年会, 2024. 11. 21～22）

固相カラムを用いた食品中の保存料試験法の検討

○小澤美紀、小泉美樹、山本敬男

（公衆衛生研究発表会, 2025. 2. 6）

ほうれん草とアサリの煮物が原因と考えられたウエルシュ菌による食中毒事例

○柳本恵太、山上隆也、植松香星、土屋邦男

（第36回地方衛生研究所関東甲信静支部細菌研究部会, 2025. 1. 16～17）

外来付着珪藻*Cymbella janischii*の都内河川での繁茂状況と他機関との連携による広域調査への展開

○石井裕一、内多美穂子、安藤晴夫、和波一夫、下ヶ橋雅樹、長谷川裕弥、鈴木元治、見島伊織、矢吹芳教、濱脇亮次、西嶋涉

（第51回環境保全・公害防止研究発表会, 2024. 11. 14～15）

河口湖、山中湖、精進湖の底層DOについて

○長谷川裕弥

（令和6年度全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会, 2024. 10. 7）

河口湖、精進湖、本栖湖における難分解性有機物に関する調査

○長谷川裕弥

（第59回日本水環境学会年会, 2025. 3. 17～19）